

3 学校アクションプラン

令和5年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保
現 状	・授業はまじめに受けている。予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習の時間の確保や習慣化が望まれる。 ・専門学科では各種検定に向けた演習を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。
達成目標	①【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合 80%以上
	②【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率 ----- それぞれ90%以上
	③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率 ----- 90%以上
方 策	・学習の記録や授業アンケート、面接を通して家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を活用し、主体的な態度を育成する。 ・HRや進路学習などから資格取得や進路実現への意欲を喚起していく。 ・手帳を活用して授業や課題に計画的に取り組ませ、課題等を確実に提出させる。
達成度	①6月と11月に実施した調査における平日の学習時間が2時間以上の生徒の割合は学年別で次のとおりである。 1学年 2学年 3学年 全体(昨年度) 6月 74% 73% 95% 78%(88%) 11月 85% 77% 90% 85%(87%) ②測量士補(3学年) 100%(78%) 土木施工管理技士 91%(81%) ③家庭科技術検定 99%(98%) ()内は昨年度
具体的な取り組み状況	・学習の記録や考査結果等をふまえ、担任・副担任を中心に定期的な面談を行い、家庭学習への意識付けや学習習慣の確立にむけて検討した。 ・互見授業や公開授業でICT機器を活用した授業を行った。 ・放課後補習、個別指導、朝学習での課題学習、専門講師による講演・講習を行った。 ・外部模試2～3回(専門学科の各学年)、公務員模試4回(希望者)、企業就職模試3回(希望者)等を実施した。
評 価	B 生徒の学習時間が2時間以上の割合が6月78%、11月85%とほぼ目標を達成したが、昨年度よりも減少した。 A 土木科の測量士補の取得率が前年よりも上回った。 生活環境科は保育・被服・食物の様々な検定に挑戦している。
学校関係者の意見	生徒への面談は、粘り強く続けてほしい。手帳は、生徒の計画性を養うのによいので活用方法を模索してほしい。 各種検定や試験への取り組みを継続してほしい。ICT機器の活用方法も模索してほしい。
次年度に向けての課題	アンケートや面談を通し、課題、朝学習、手帳について検討し、学習習慣の定着を目指す。 ICT機器の活用方法を模索し、わかりやすい授業を目指す。資格取得への取り組みを継続する。

(評価基準) A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行と制服の品位ある着こなし ・SNS等の正しい使い方 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする生徒が多いが、その一方で挨拶をしないなどの社会の一員としての行動規範がしっかり身に付いていない生徒もいる。挨拶運動（登校指導）を継続して行い、徹底したい。 ・今年度から新制服を導入し、クールビズ期間における制服の着こなしに自由選択（オプション）を設けたことで、何種類もの着用パターンが可能になった。そのため品位ある制服の着こなしを指導していく必要がある。 ・SNS等に安易に画像や情報をアップする行為が見られる。また、誹謗中傷などのトラブルが発生している。 	
達成目標	①生徒玄関での挨拶運動と定期的な服装指導で、品位ある制服の着こなしの意識を高める機会を設ける。	②SNSの危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合。
		90%以上
方 策	制服については、わかりやすく見えやすい図で示したものを準備し提示する。自ら考えて判断し、行動できるように、HR等で学校生活におけるルールやマナーを守る意義について考えさせる。	全校集会やHR、携帯・ネット安全教室などで正しい使い方やネットの危険性を指導する。生徒会、生活向上委員会には「スマホのルール作り」を考えてもらう。また、保護者等に協力してもらい、家庭での使用ルールを考えてもらう。
達成度	夏服冬服ともに着こなしの自由度が増したが、具体的に着こなし方を図示したことで、ほとんどの生徒は指導されることもなく、爽やかな着こなしができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等で知り合った人とメールのやりとりや直接会ったことがあると回答した生徒が約37%いた。 ・学習に悪影響、睡眠不足と回答した生徒が約24%と意外に低い結果となった。（アンケート項目に「危険性の理解」が抜けた）
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導で挨拶意識の高揚を図り、服装のチェックも同時に行った。 ・制服の着こなしの指導に関しては、学年による定期的な服装指導(7回)に加え全教職員での指導も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、学年集会において、SNS等の使用に関わる危険性について指導を行った。 ・外部講師による携帯・ネット安全教室(1学年)、薬物乱用防止教室(2学年)を開催し、高額請求・闇バイト・大麻売買などSNS等に関わる危険性を学んだ。
評 価	A 新しい制服となり、様々な機会において指導した成果として、生徒は体調や気分に合わせてきちんと着こなししている。	B SNS等に関して個人情報の掲載、無視や仲間外れがあった。学校のタブレットを使用目的以外に利用している生徒がいた。
学校関係者の意見	制服の正しい着こなしを図で示したことが、生徒に強制ではなく自主性の刺激になり、良かったのではないかと。	SNSの使用はその危険性と関係がある。今までの取り組みを継続して行い、問題が起らないよう指導をお願いしたい。
次年度に向けての課題	次年度もう1年指導を継続することで、新制服の着こなしの指導の定着化が図られると思う。また、服装の乱れが起らないよう職員間の情報交換と連携を大切にする。	インターネット上でのマナーやモラルの教育、いじめの防止策の強化など、引き続き指導を行う。外部講師の講演なども効果的に活用する。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	進路支援（進路について関心を高め、進路目標実現を支援する）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立 ・組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録や面談によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 ・受験を意識した学習に取り組む始める時期が遅く、学習時間が不足している。 	
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会 1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上	②卒業時点で、在学中の進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 ・担任、副担任以外の教員も面談に当たり、生徒が多く教員と関わるように努める。 ・学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試等の結果を教員間で共有し、学年会や検討会等を通して問題点や課題の共通理解を図る。 ・生徒の週課題、自主学習への取り組みを調査し、スタディサプリの使用等も含め、量と質の適正化を図り、家庭学習を充実させる。 ・進路講演会、大学出前講座、卒業生の報告会、職業体験会などを実施して、生徒の意欲の向上を図る。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の面談回数の平均は、(昨年度) 1学年 4.9回 (4.0回) 2学年 3.1回 (5.5回) 3学年 11.5回 (5.8回)であった。 ※回数については生徒の認識の違いの影響も考えられる。 ・5回以上面談をした生徒は全校の49%(42%)で昨年より増加した。全校で90%以上の生徒が「面接が役に立っている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試や講演会、県内大学出前講義、職業体験学習をコロナ前に近い状態で実施できた。 ・模試結果は担当者全員で回覧し、現状把握と到達点の共有を行い、生徒の状況に応じた指導につなげた。 ・スタディサプリアやGoogle Classroomを活用して学習に取り組むことができるよう、教員が課題を配信するなどして生徒に働きかけた。 ・卒業生のアンケート結果 役立った割合 専門学科93% 普通科82%
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して適切な時期に面談を複数回実施し、生活面や学習面について現状把握に努めた。 ・特に3学年の進路指導に関しては多数の教員が関わり効果を上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の振り返りシートの内容や模試結果による情報を共有し、各生徒の学習指導や進路指導に複数の教員が関わった。 ・上級学校や企業など外部講師の講演や説明会等に参加し、進路に対する意識を高めた。
評 価	B	B
学校関係者の意見	生徒によって伸びる時期はそれぞれ異なると思うが、教員側も微妙な変化の把握に努めてほしい。	
次年度に向けての課題	面接の実施方法や担当者を学年と検討しながら、より効果的な面接のあり方を研究する必要がある。	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 ・ホームルーム（HR）活動の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率・活動状況ともに高い水準を保っている。コロナ禍前の活動に少しずつ戻しながら、安全・安心な部活動運営に努めている。 ・HR活動では、生徒の自主性を尊重し、主体的な活動になる内容を模索している。 	
達成目標	①部活動に対する満足度 ----- 80%以上	②HR活動が学校生活の充実につながったと 感じる生徒の割合 ----- 80%以上
		③HR活動に積極的に参加した生徒の割合 ----- 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会議等を通じて、各部の部長に対しリーダーとしての自覚をもたせる。 ・各部員たちが必要な課題を話し合い、安全で適切な部活動ができるよう取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動の内容の例を示し、計画させる。 ・計画、運営、振り返りができるよう記録用紙を活用させる。
達成度	①部活動に対する満足度 68% (72%) (とても満足 27% 満足 41%) <ul style="list-style-type: none"> ・不満と答えた生徒は7%。 ・どちらともいえないと答えた生徒が25%もいる。 	②HR活動に対する充実度 68% (73%) (とても満足 20% 満足 48%) ③HR活動に積極的に参加 84% (81%)
具体的な 取り組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会議で集団活動の意義を伝え、他部員への課題解決を図った。 ・各大会に向けての壮行会を行うことで、志気を高めさせるようにした。 ・年度末には部室や使用場所の大掃除を行い、環境整備をする予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や防災、将来の目標やあり方生き方などの講話を実施し、自己の成長およびキャリア形成を考える活動を行った。 ・レクリエーションは各学期に1回とし、討論や発表、調べ学習など様々な活動を計画させた。
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> ・技能の向上や人間関係の形成があり楽しかったと答えた生徒が多い一方、部員が少ない、練習相手が不足している、休みが少ない(多い)練習場所がない、練習環境が悪い等の不満意見もあった。 ・昨年に引き続き、北信越・全国大会への出場者が多かった。 	C <ul style="list-style-type: none"> ・HR運営委員によって活動に差がある。 ・HR運営委員の経験不足が大きい。 ・自由度やクラスでの交流が少ないことへの不満や、他のクラスとの交流などの要望があるが、比較的高い満足度であった。
学校関係者の意見	教員が指導できることには限度がある。人間関係など生徒が乗り越えるべき部分については見守る姿勢で指導できればよいのではないかと。	能登半島地震があったことから、防災についての訓練やハザードマップの確認など、3学期中に改めて地震等に備えた指導を行っていただいた方がよいのではないかと。
次年度に向けての課題	達成目標を「部活動に対する自己達成度」や「部活動に対する活動状況」など部活動の活性化に関する目標を検討したい。	今年度の方策を今後も継続していき、クラス単位だけではなく、学年や学科単位の活動を取り入れるなど、生徒主体のHR活動になるよう検討していきたい。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	その他	
重点課題	図書館利用の活性化	2 学年研修旅行の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出数・利用者数は、ともに、ここ数年増加傾向にあるが、本を借りる生徒の固定化は否めない。 ・「読書センター」としての役割は果たしているが、「学習センター」「情報センター」としての役割が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的として実施している。この研修は、生徒の進路希望状況や各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出数 1,600 冊以上 ・年間利用生徒実人数 440 人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する関心・意欲が高まった割合 80 % 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会活動を充実させ、生徒が利用したくなる図書室の工夫を継続して行う。 ・進路学習や総合的な探究の時間などの探究活動の参照図書を充実させレファレンスを行う。 ・学年・教科担当者と連携し、授業での図書室の活動を推進していく。 ・多様な分野の本を選定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望や適性、社会情勢などを勘案し、より最適な研修を立案する。 ・生徒が研修に対して目的意識をもって積極的に参加できるように、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 ・進路意識を高めるとともに、学習意欲と資格取得への意識が高まるように指導する。 ・めまぐるしく変化する多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動なども取り入れる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出数 1631 冊 (R6.1.12 現在) ・年間利用生徒実人数 313 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する関心・意欲が高まったと答えた割合 90.4%
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員が学年別に例年より多くの企画を行うなど、より生徒に身近な図書館を目指し活発に活動した。 ・1 学年のホームルームを活用し、各クラスミニブリオバトルを行い、本に対する興味・関心を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の時間を確保し、研修内容や移動手段などの計画立案を指導した。 ・各科において、適した大学や企業を訪問したり研修を受けたりすることで、今後の進路を決めていく上で視野を広めることができた。
評 価	B 授業での利用が少なく、利用生徒実人数が目標に達成しなかった。	B 目標は達成したが、その後進路意識が継続できていない生徒もいる。
学校関係者の意見	<p>移転新築した黒部市立図書館で見学、研修等の機会を設け、図書委員と黒部市の司書の方との人的交流を図ることも、魅力的な図書館づくりにつながるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望の多様化に応じて、研修先をいろいろと工夫して行ってほしい。 ・研修時期は12月にこだわらず、別の時期も検討してみてよいのではないか。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員の地道で継続的な活動を中心に、幅広い生徒に利用される図書館を目指す。 ・時代に見合う図書館であるために、生徒の要望や実態の把握に努め、電子書籍の導入や効果的な利用についても検討を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修時期については変更も含めて、学年だけでなく関係部署と連携して、早くから検討する必要がある。 ・コロナ禍を経てまだ難しい状況もあるが、なるべく生徒の希望に沿えるように、研修内容の決定や受け入れ先の確保に早めに取りかかりたい。

(評価基準) A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった